

2019年度活動方針（案）

昨年は、「振込め詐欺」の話題で高槻警察協力による研修会や井戸端会で話が弾み、被害者が高槻に特に多く、自分は大丈夫と思う人が危ないことがわかりました。今年に入って詐欺から殺人事件に発展するケースが生じて怖い時代になったと感じます。

高齢化の波は自然災害の激化にともなって、住民同士の支え合いの大切さに改めて目を向ける事になっています。幸いなことに、「よくする会」の互助活動は26年前から先駆的に取り組んできています。他のモデルにもなるとの評価も頂いています。長い間取り組んで来た仲間も高齢化していて、いささかマンネリ感はあっても健康的です。認知症の発生率も極めて低く、ボランティア活動の有効性を実感する昨今です。終活の準備をしつつも、高齢者が高齢者を支えるという意気込みに期待は大きくなります。

地域の課題に取り組み、変革(イノベーション)することがNPOの役割ですから、すぐ疲れる高齢者でも立派にイノベーションの主体になれるはずです。それを見て年寄りには任せられないと言う若い人が出してくれれば、その時は素直にお任せしましょう。

1. 心身ともに健康を維持し、生きがいや働きがいを見出すため、会員が地域で上手につながって助け合う仕組みを創る。
 - ① 運営委員会を毎月第3土曜日に開催し、午後は会員の交流の場として学習会や楽しい行事を企画する。送迎を希望する人が増えているので送迎体制を充実させる。
 - ② つどいの家「はむろ」の介護事業にスタッフ、ボランティア、利用者として参加し、互助の精神を培って共に成長していく。
 - ③ 塚原地区と南平台地区で開催している井戸端会が継続出来るよう支援する。
 - ④ 氷室のバプテスト教会で月1回開催している「ほっこりカフェ氷室」への参加・協力を呼び掛けていく。
 - ⑤ 「よくする会祭り」を年1回行い、会員相互の交流をはかる。
2. 病気や障がいを負っても互いに尊厳をもって生きられるよう、「弱さ」を共有して支えあい共に成長していく。
 - ① つどいの家「はむろ」の介護事業や予防活動を充実させるとともに、ケアの質を高めていけるよう互いに協力し合う。
 - ② 会員の互助活動「ありんこの会」の活動の充実をはかり、支援会員、利用会員も増やしていく。
 - ③ 「認知症を理解し地域で支える会」の活動等に参加・協力し、認知症本人とその家族の支援に貢献する。